なる建中五年の孔目司文書、⒅の(4)なる唐の戸籍の斷片及び、㉖の高昌國人の墓表六種などは特に注意すべきものと思ふ。木製招子は歐人の獲たものも多くあつて其の中には武帝時代の天漢の年號の見ゆるもの迄あるのであるが、紙に書いた書牘の類では、李柏文書以前のものはなかつたやうである。高昌國人の墓表の中には、先きに紹介した佛典の跋文に見ゆる年號以外別に延和の年號なども見えて居る。

經籍の部は十葉、(1)唐鈔論語孔氏本鄭玄注の如き珍重なるものをはじめ、(2)唐鈔尚書孔傳同春秋左氏傳、(3)六朝鈔本舊注孫子(5)史記仲尼弟子列傳、漢書張良傳等が主なるものであらう。たゞ之が悉く寸餘の斷片で尺に及ぶものは一二にすぎないのは惜みても餘りあることである。

西域語文書は二十三葉、其の中(1)—(5)に回鶻文佛典五葉、(6)に回摩尼教經典、(7)に同書籍斷片、(8)—⒁に同文書三葉、⒁に突厥文文書斷片、⒁に蒙古文佛典等が收められまた覩貨羅語のものには⒁の寺院出納記錄、⒁の出納薄文書、梵語覩貨羅語對照天文に關する文書、⒆の(1)の木簡などが見え、佉盧虱底文の木簡も少くなく、其の中には⒄⒅に計算文書、土地購賣文書、契約文書、商業上の取引文書等があり、⒁—⒃に西夏文佛典三葉、其の他⒇—㉒に梵文佛典、㉓の(3)及び(4)に西藏文書、㉒に數片の不明語文斷片が收めてある、(1)回鶻文の天地八陽神呪經は圖には終りの一部分より出て居ないが、實物は珍しくも殆んど全卷が保存せられて居る、此等の西域語は目今歐洲學者の競ふて研究して居るもので然も亦た至難の事業である、吾人はかゝる六つかしい文書、殊に覩貨羅文、佉盧虱底文書等のものに對してそれ〴〵説明を付せられた學者の苦辛に對して甚深の敬意を捧げるものである。

最後の印本の部は六葉で悉く佛畫佛典であるが、それが皆唐刻といふ珍奇のものである、但し此の中の(2)及び(3)